

飯塚病院体制見直し後の飯塚急患センターの課題と対応

課 題	課題概要	急患センターでの対応策												
1.利用者の増加への対応	<p>① 1日平均利用者の増加</p> <table border="1" data-bbox="593 420 1656 604"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>小児科</th> <th>内科・小児科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日</td> <td>2.76人→6.50人</td> <td>6.12人→9.33人</td> </tr> <tr> <td>土曜日</td> <td>7.43人→27.20人</td> <td>19.51人→34.84人</td> </tr> <tr> <td>日祝日</td> <td>8.23人→23.04人</td> <td>20.88人→31.38人</td> </tr> </tbody> </table> <p>② インフルエンザ流行期は、1日平均の2～3倍の利用増となり、最大90人程度の利用見込みとなる。</p>	区分	小児科	内科・小児科	平日	2.76人→6.50人	6.12人→9.33人	土曜日	7.43人→27.20人	19.51人→34.84人	日祝日	8.23人→23.04人	20.88人→31.38人	<p>① 医師及び従事者の適切な配置 ⇒大学病院医局、圏域小児科病院・診療所との連携</p> <p>② 待合室、診察室の確保⇒施設改修 ※医師会検査センターへの支障検討</p> <p>③ 駐車スペースの確保⇒近隣コインパーキングとの契約</p>
区分	小児科	内科・小児科												
平日	2.76人→6.50人	6.12人→9.33人												
土曜日	7.43人→27.20人	19.51人→34.84人												
日祝日	8.23人→23.04人	20.88人→31.38人												
2.発熱者への対応	<p>① 急患センター利用者の約23%は発熱者と推計（#8000 電話相談実績より）</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症により、動線、ゾーニングを明確にする必要がある。</p> <p>③ 夜間のみでの開設であるため、検査結果に時間を要するPCR検査はできない。</p> <p>④ 現時点では、上記③により発熱者の通常の診察、治療ができない。</p>	<p>① 発熱者の待機、検査、診察室の確保⇒施設改修 ※医師会検査センターへの支障検討</p> <p>② 感染防止対策の実施⇒施設改修 ※マンション居住者、バスセンター利用者との動線検討</p> <p>③ PCR検査必要性検討⇒検査機器所有している医療機関との連携</p>												
3.1歳未満児への対応	<p>① 1歳未満児の利用は約22.4%と推計（R2年度#8000 電話相談実績より）</p> <p>② 2歳未満児の利用は約45.7%と推計（同上実績より）</p> <p>③ 急患センターの小児科を担当する医師で、1歳未満児の診療を行っている医師が少ない。※内科医の専門分化が進み、小児科を併科標榜する内科医の減少</p>	<p>① 1歳未満児の診療が可能な小児科医師の確保 ⇒大学病院医局、圏域小児科病院・診療所との連携</p> <p>② 小児医療に経験豊富な看護師、薬剤師の確保が必要 ⇒圏域小児科病院・診療所との連携</p>												
4.多様な疾病への対応 (重篤患者への対応)	<p>① 喘息、けいれん、アナフィラキシー等、緊急性の高い疾患への対応</p>	<p>① 多様な検査機器の設置⇒検査技師の確保</p> <p>② ストックすべき治療薬増加⇒薬剤師の確保</p> <p>③ 処置の高度化・複雑化⇒対応可能な看護師、処置スペースの確保</p> <p>④ 2次救急告示病院や飯塚病院との連携</p>												
5.未開設時間の対応	<p>① 土曜日の午後の対応 1日平均約4.94人</p> <p>② 深夜帯の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日 1日平均約1.49人 ・土曜日 1日平均約1.69人 ・日祝日 1日平均約3.39人 	<p>① 開設時間拡大する場合は ⇒大学病院医局、圏域小児科病院・診療所との連携</p> <p>② 開設時間拡大しない場合は ⇒#8000の活用⇒周知徹底 ⇒内科系の救急外来での対応</p>												